

題材名・単元名	学部	授業名（主たる教科領域）	授業者
「いろいろばあ」で描こう	小	グループ学習 低学年たんぽぽ (図画工作)	
<p>&lt;ねらい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵の具の感触や色、形の変化に気づく。</li> <li>・ 色の名称が分かる。</li> <li>・ 自分なりの方法で絵の具の色や形を変化させる。</li> <li>・ 自分なりの方法で、模様をつける。</li> <li>・ 自ら素材に関わろうとする。</li> <li>・ 絵の具の感触、色や形の変化に、面白さを感じながら取り組む。</li> </ul>			
学習内容	学習活動		指導上の留意点・準備物
1 はじまりの歌 2 あいさつ 3 呼名			
4 ふれあい遊び 「♪びったんぱ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師から赤い手袋で触れられたりくすぐられたりすることを楽しむ。</li> <li>・ 関わりを意識して構えたり、触れている身体部位を意識したりする。</li> <li>・ 快や要求の気持ちを、表情や視線、動作などで表す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめにどの部位を触れるのか意識できるよう丁寧に伝える。</li> <li>・ 一人一人の児童の様子に応じて心地よいと感じられるような力加減で触れる。</li> <li>・ つくる活動につながるよう手のひらにも刺激を入れる。</li> </ul> ○赤い手袋
5 絵本 『いろいろ ばあ』 (拡大仕掛けパネル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕掛けや、繰り返しの言葉に気持ちを向けたり楽しんだりしながら、読み聞かせを見聞きする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返しの言葉にアクセントをつけたり、仕掛けを動かしたりして注目させ、色や形の面白さを感じさせたり、次の活動への期待感を高めさせたりする。</li> </ul> ○拡大仕掛けパネル
6 さわって描こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色を知る ボトルに入っているのり絵の具を見ながら色の名称を聞く。</li> <li>○色を見る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の側でのり絵の具を提示し、注目させる。</li> <li>・ 「いろいろばあ」の言葉かけ</li> </ul>

<p>7 あいさつ</p>	<p>紙の上に出されるのり絵の具に注目する。</p> <p>○触る のり絵の具を各々の方法で触る。 ・ビニール越しに触る ・直接、手指で触る ・玩具を介して触る など 絵の具の感触や、色や形の変化に気づいたり、面白さを感じたりしながら気持ちを高め、もっとやってみようとする。</p> <p>○鑑賞 一人一人の作品を鑑賞する。</p>	<p>や「♪びったんぱ」のを歌いかけながら、楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接接触することに抵抗がある児童には、ビニール越しや玩具を介しながら無理なく取り組ませるようにする。</li> <li>・満足するまで十分に取り組ませる。</li> <li>・一人一人の児童をしっかりと褒める。</li> </ul> <p>○のり絵の具：赤・蒼・黄・白（各ドレッシングボトルに入れる）、</p> <p>○厚紙：黒（画板に貼ってビニール袋をかぶせる）、</p> <p>○玩具など</p>
---------------	--	---

< 内容（工夫点など） >

手指で直接触れたり操作したりしながら、感触や色や形の変化に気づき、面白さを感じさせることをねらいとした。直接接触れることに抵抗がある児童が半数いたため、ビニール袋越しに触ることから始めた。洗濯のりに絵の具を混ぜた“のり絵の具”は、ぼったり、ひんやり、ぬるぬる等の感触が面白く、指で触った部分の軌跡がしばらく残っていたり、色が混じり合う速度がゆっくりだという特徴がある。色に注目しやすいように、黒い厚紙の上で鮮やかな色ののり絵の具を用いた。児童の目の前や手元で、のり絵の具をドレッシングボトルから勢いよくたっぷりと出し、注目させるようにした。慣れた児童にはビニールを外して直接触れながら取り組ませ、抵抗がある児童には好きな玩具を介しながら触れることに取り組ませるなど、実態に応じて工夫した。（のり絵の具は水分が多く、乾くと色が薄くなるので、洗濯のりに混ぜる絵の具の量は多い方が良い。紙が薄いと活動中にふやけて破れる事があるので厚紙の方が良い。）

< 良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め） >

これまでの経験から手が汚れる事に対する嫌悪感が強い児童に対して、いかに安心して活動に気持ちを向けさせ、色や形の変化に注目しながら手指で活動させるかを第一に考えた。始めは教師と一緒にビニール越しに触れながら手が汚れないということを確認させた。回を重ね、大丈夫だと分かってくると、徐々に活動に気持ちが向き、手元に視線が向いたり、自ら触ろうとしたりするす姿を引き出すことができた点が良かった。

（注意点：のり絵の具は乾くまでに混じったり流れたりするので、児童の描いた軌跡をそのまま作品に残すことは難しく、多少形が変わってしまう。ビニール袋に入れたまま乾かすと作品にビニールが張り付き、また、半乾きの状態でビニールをはがすと児童の軌跡は残らない。ビニール越しに触る素材としては良いが、作品に残すには向かない。）

